北九州市立則松中学校

【学校ホームページアドレス】
www.kita9.ed.jp/norimatsu-j

ジャガイモ

校長通信　No.２９８

令和６年　３月１３日

「 守破離～卒業式編①～ 」

校長　江　口　　満

金山川のほとりの木々や花々が一斉に芽を出し始め、いよいよ待ちに待った春が訪れようとしています。この3月は、夢見月と言われています。私たちの心にも新たに芽生えた夢や目標に向かって、私たち自身が、その第一歩を踏み出す季節です。このような中、本校では、3月8日(金)、ＰＴＡ会長並びにご来賓、保護者の皆様のご臨席を賜り、第４９回卒業証書授与式を執り行いました。

保護者の皆様方にはこの三年間、本校教育へのご理解とご支援を心から感謝申し上げます。本音を言わしていただければ、まだまだ、卒業生の皆さんと共に活動したい気持ちでいっぱいです。また保護者の皆様からは卒業生の皆さんへ、コサージュや卒業記念ＤＶＤをいただきましたこと、本当に有り難うございました。

さて、142名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。一人一人にお渡しした卒業証書によって、中学校課程三カ年、並びに九カ年の義務教育、全課程を修了いたしました。(裏へ)

【左上】箏曲部の演奏の中、卒業生一人一人に卒業証書渡す本校伝統の卒業証書授与式・学校長式辞の様子【右】「三年間一緒に過ごしてきた最高の仲間へ。辛い時も苦しい時も、共に助け合い乗り越えてきた最高の友へ。伝えたいことがあります。これから先、何度も大きな壁にぶつかると思います。しかし失敗することは決して意味のないことではありません。それに対して落ち込んだり悲しんだりすることもあるでしょう。失敗は成功に導くための道筋の一つであるのです。だから自分に自信をもって突き進んでください。私自身もそう信じてこれからの人生を歩んでいきます。」卒業生表答辞で力強く語った生徒会Ｕ会長

【上】来賓祝辞で「卒業生の皆さんは、これから新しいチャレンジが始まります。新しい環境で、皆さん一人一人が自分らしく楽しんでいけますように、みなさんへエールを送ります。」と語ってくださったPTA会長Ｈさん

【下】卒業記念品として渡した校長通信「ジャガイモ」号外版のイラスト「守破離」。一年「則松ウォークラリー」の堀川・折尾駅、「門司港フィールドワーク」の門司港レトロ地区、二年「九重キャンプ教室」の久住山・九重夢釣り大橋・牧ノ戸峠、三年「修学旅行」の新幹線・金閣寺・東大寺の思い出、部活や生徒会「きずなプロジェクト」、体育祭や文化祭学年合唱と則松中の「心の原風景」を表現しました。

【左】卒業証書授与式に華を添えてくれた箏曲部の皆さん。
春(「早春賦」他2曲)、夏(「旅愁」他2曲)、秋(「赤とんぼ」他2曲)、冬(「仰げば尊し」他2曲)の4グループに分かれて、四季それぞれに3曲ずつ、計12曲を演奏しました。

式辞では、「守破離」というお話をしました。紹介します。

本校には様々な学校行事があるが、私がカメラを構えると、生徒たちは、口々に、「ジャガイモ」「ジャガイモ」と連呼する。何も知らない方々が見ていたら、「なぜジャガイモと口々に言っているのだろうか？」と、不思議な顔をされる。皆さんにとっては、「校長先生、写真を撮ってください。そして、校長通信『ジャガイモ』に掲載してください。」となるだろうか。この思いを代表した言葉が、この「ジャガイモ」という単語に集約されている。

また校長通信がなぜ「ジャガイモ」なのかを説明していなければ、よく生徒から「自分たちがジャガイモなん？」と聞かれる。だからこそ三年前の四月入学式、皆さんに「芋洗い」の話をした。私は、この芋洗いこそが教育の原点であると思っている。しかし、皆さんの頭の上から、当然、「私たち何で芋なん？」というハテナマークが上がった。

【次号に続く】

【上・下】今まで育てていただいた保護者の方々、三年間ご指導いただいた先生方への感謝の気持ちを込め、卒業の歌「さくら」「旅立ちの日に」を熱唱する卒業生の皆さん

【左】保護者代表謝辞の様子
【右上】PTAからの花束の贈呈
【右】卒業の歌を聞き入る三学年職員
【下】お世話になった担任の先生の先導で則松中学校から羽ばたき、新たな一歩を踏み出す卒業生の皆さん